撮影者：空撮アーティスト 前田 太陽

2020年大河ドラマ「麒麟がくる」

丹波 戦国 名将伝

雲海に浮かぶ黒井城跡…
丹波が誇る勇将の足跡を訪ねて

丹波の赤鬼 × 戦国の智将

© 2018 中川英明

黒井城の戦い

Kuroi-jo no tatakai

丹波の赤鬼 vs 戦国の智将

撮影者：前田 太陽

国史跡 黒井城跡

戦国時代、赤井（荻野）直正の居城であった黒井城。標高356mの猪ノ口山全体が要塞となっており、戦国屈指の山城である。山中の至る場所に曲輪や堀切などの防御施設が作られ、山頂にある本城を守るため、Y字形の尾根に沿って砦が築かれている。平成元年に国の史跡に指定。

別名「保月城」とも呼ばれる本丸跡（上）
東曲輪の野づら積み石垣（下）

丹波の赤鬼 織田信長との決戦へ

1570年（元亀元）、赤井（荻野）直正は一族の甥・忠家とともに京にいた織田信長に拝謁し、織田方に味方することを約束。氷上（丹波市）・天田（福知山市）・何鹿（綾部市）三郡の所領を安堵された。

しかし、1571年に隣国の但馬から山名氏が攻め込み、直正はこれを撃退。さらに反撃に転じて勢いに乗った直正は、「天空の城」として有名な竹田城を占拠した。山名氏は信長に救援を依頼し、1575年（天正3）、信長は明智光秀に丹波平定を命令。明智軍の動きを察知した直正は黒井城にこもり、戦闘態勢を整えた。戦国最強を誇る信長の精鋭部隊との対決に直正は踏み切ったのである。

秋冬の冷えた朝には雲海の絶景が広がる

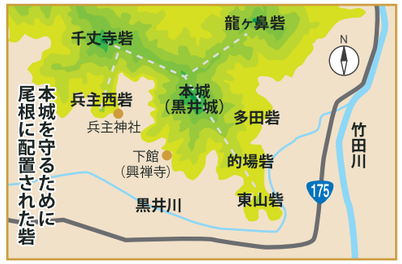
赤井の呼び込み戦法 ～光秀軍を破る～

丹波攻めの総大将を命じられた明智光秀は、赤井氏と並んで二大勢力を誇った八上城主の波多野秀治を取り込み、着々と直正包囲網を形成していった。そうして、丹波の豪族たちの大半を味方につけた光秀は、満を持して、大軍により黒井城を包囲した。当初は「すぐに落城するであろう」と書かれた光秀の書状も残り、赤井軍が圧倒的に不利な立場であったとされる。

しかし、ろう城が2ヶ月以上経とうとした頃、波多野秀治が突如、反旗をひるがえして、明智軍を急襲。赤井、波多野軍に三方から攻め立てられた明智軍は大敗し、光秀は命からがら居城である近江坂本城に逃げ帰ったとされる。これは直正の作戦ともいわれ、後に「赤井の呼び込み戦法」と呼ばれる。明智軍を破った直正は、その勇猛果敢な戦いぶりから「丹波の赤鬼」として武名を轟かせたのである。

1577年（天正5）、信長は再度、光秀に丹波攻めを命令。翌年、武勇を誇った直正が病死すると、求心力を失った丹波の諸将は次々に討伐される。光秀は前回の失敗を踏まえ、今回は一気に黒井城を攻めようとせず、周りの城から攻略。1579年、孤立した黒井城はついに落城の憂き目に合った。その後、丹波国は光秀が統治するが、直正の武名は後世に語られ、丹波の名将として今に伝えられている。

黒井城関連年表

西暦	関連事項
1335年（建武2）	赤松貞範（赤松円心・次男）が丹波国春日部荘を所領とする。その後、変遷を経て、荻野氏が黒井城主に。
1554年（天文23）	赤井直正が叔父・荻野秋清を刺殺し、黒井城主に。悪右衛門直正と名乗り、黒井城の改修に着手する。
1576年（天正4）	明智光秀が黒井城を攻めるが、直正は波多野氏と協力して光秀を撃退。
1579年（天正7）	第二次丹波攻めにより、孤立無援となった黒井城は、光秀の大軍の前についに落城する。

黒井城跡周辺 散策マップ